

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和3年度第1回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和3年11月18日(木) 午後1時30分～3時10分
開催場所	高松市役所11階 113会議室
議 題	(1) 審議事項 (ア) 生涯学習事業の推進状況報告について (イ) 生涯学習の今後の推進方針について (2) その他 高松市読書バリアフリー計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、大村委員、青木委員、山口委員、上原委員、野上委員、久保委員、合田委員 (欠席委員1名)
傍聴者	1名(定員3名)
報道記者	0名
担当課及び連絡先	生涯学習課 839-2633

会議の経過及び結果

(1) 審議事項

(ア) 生涯学習事業の推進状況報告について

高松市生涯学習事業の推進状況報告について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

オンライン開催等を実施したことにより、むしろアクセスできる方が増加したということで、ニーズに応えることができたというメリットの面もあるかと思う。

今年度の事業も含めて、今後も良い部分を生かして事業を実施していただきたい。

(委員)

対面が一番良いが、私自身、Zoomが使用できるようになり、オンラインの必要性を感じている。

また、現状、本を読むということがだんだんと薄れている。

街角のどこでも本を借りることができ、返却可能な場所が更に増えれば良いと常々思っている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響により、ママカフェを休止していたが、再開と同時にママ達の本当に喜んでいる声を聞くことが出来た。

新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、皆様が集える場所を今後も作っていきたい。

(委員)

No.127「高齢者教室」、No.128「女性教室」の事業内容に「教室は廃止し、令和2年度よりNo.126『コミュニティセンター講座』に統合したため、実績なし」とあり、D評価となっている。

統合した2つの教室は、教育振興基本計画の期間は廃止、統合したため実績なしとなり、D評価となるのか。それとも、いつか削除となるのか。

会議の経過及び結果

(事務局)

2つの事業については、本来は含まれていないという状況である。

(委員)

その場合、評価不可とはならないのか。

(事務局)

削除となるので、修正させていただく。

(委員)

子どもは、親から「外にできるだけ出ないように」と言われると、どうしてもゲーム機を使っ
ての遊びが中心となり、勉強が疎かになり得るのでその辺りを懸念している。

青少年の健全育成にも携わっているが、最近、青少年の非行は減少傾向にある。しかし、たま
に外出をして複数の子ども達が集まると、どうしても要らない考えも浮かぶ。そういったところ
で、子ども達を十分に見守っていかなければならないため、現在、いろいろな事業を進めている。

(委員)

私は、高松市PTA連絡協議会の行事が行われる時は、なるべく参加をし、子どもの現状を見
ている。しかし全く行事がない中、顔を見ることもない。

そのような中で、私ができる事は、地域で子ども達の顔を見て、保護者の意見を聞いて報告す
ることであると思っている。

(委員)

コロナ禍の今、いろいろな体験活動等が減少しており、「コロナと一緒に」という時代になって
きている。

オンラインを活用するのも良いが、やはり子どもの中の遊びは、人と人、子どもと子どもが一
緒に活動をすることがあってこそだと思う。

人が集まって話をするのもだが、子ども達が、どこまで自由に活動ができるか、その辺りの
市としての関わり方を今後どうしていくかをお聞きしたい。

No.56「不登校等に関するカウンセラーによる相談事業」について、私の子どもも不登校であ
るし、不登校の子どもは周りに本当に沢山いる。

相談回数を増やすとか、校区によって回を細かくしたり、市全体というより、中学校区とする
ことで、中学校に上がったかどうか等の話もできると思う。

不登校は減る感覚はなく、多分増えていくと思う。その中で、きっと教育の仕方を変えなけれ
ばならない。

子どもと保護者が生きやすく、打ちひしがれることなく過ごせたら良いと思っている。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響で、事業中止の判断をどのようにしたのか、それを今後どう
活かしていくのかという質問かと思うが、これについてはどうか。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症対策については、その時の感染状況、感染レベルに応じた対応を香
川県が示しており、それを基本として事業を実施している。

ただ、細かな部分は担当課で判断することはあるかと思う。

感染症対策はしっかりと行うということで、感染レベルに応じて対応していきたい。

(委員)

不登校は、各自治体で増えているが、対策について、どのように考えているか。

(事務局)

対面というのは大事であるが、ICTの活用等を含めながらリーフレットを作成している。

学校教育の面から、先生方の関わり方も考えながら、現在進めているところである。

本市としても、不登校が良い悪いではなく、子ども達のことを考えてどうしていきべきかが大事であると考えている。

(委員)

親の会の手紙について、説明もなく、持って帰ってくださいと言われた書類の中に入っていた。子どもが学校に行かないという不安の中で「なんだろうこの事務的な感じは」というのが凄くあった。

私の子どもは、「学校に行きたいけど、行けない」という葛藤の中でのいる。

凄くデリケートな部分だと思うが、リーフレットが来て、こういうのがあるのが分かるという段階があることで、保護者は凄く安心するのではないか。

現場の先生がどれだけ大変なのかは分かっている。それならば、違う方が関わる事が出来るのではないかと思ったりもしている。

(委員)

同じような悩みを抱えている保護者はたくさんいると思う。

大きな課題の1つである。

(委員)

カウンセラーについて、子どもと保護者にとって、合う、合わないもあるようだが、選出方法はどのように行っているのか。

(事務局)

全ての学校に臨床心理士の資格を持っているスクールカウンセラーを配置している。

機械的に配置しているため、カウンセラーと相談者がマッチしない事例が出てくる可能性はある。その場合は、別のカウンセラーを紹介できるので、是非声を上げていただければありがたい。

(委員)

公認心理士という国家資格もあり、臨床心理士と公認心理士の両方の資格を持っている方が、今後は増えてくると思う。

(事務局)

欠席した委員からの意見を紹介する。

リモートと対面をうまく使い分けること「対面でないとできないこと」「オンラインでもできること」を峻別していくことが必要である。

また、No.79「広報高松による情報提供」、No.80「市ホームページによる情報提供」において、特に広報誌が刷新され、大変読みやすくなってきた。

市ホームページによる情報発信を更に行うことや、幅広い年齢層に情報が届く、また、紙面を手にとっていただける工夫が必要かと思う。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響がない事業で、低い評価である部分について、どう見ていくかを考えていただきたい。

令和2年度の結果を受けて進めていると思うが、今年度の後半に向けても、そのことを生かしていただきたい。

また、令和4年度に向けて、内容、実施方法、対面かオンラインか、状況に応じて、どう対応していくか。

今後、評価が低かった部分についてはどうするのか、廃止・統合を精査した上で、今回の推進状況結果を生かせたらと思っている。

(イ) 生涯学習の今後の推進方針について

生涯学習の今後の推進方針について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

まさに時代のニーズに合致したトピックで計画を練られていると感じた。

いくつか気になった部分と、生かし方を160あまりの事業にどう絡めていくかというところで、キーワードにしていただきたいことをお伝えしたい。

まず、学びたい人と発揮したい人のニーズのマッチングが難しい。

市が160あまりの事業を生涯学習という視点から目的を持って行っているということが、果たして地域の方に分かりやすく伝わっているのか。

例えば、アプリでお気に入り登録していると、募集開始の通知がされる機能、参加申し込みが出来るとか。視覚障害のある方でも読み上げ機能があるので、文字で書かれていても掴みづらい情報が探しやすくなるとか。

使いやすさや参加しやすさ、活動のしやすさというところのアクセシビリティをキーワードに、いろいろな方が情報にアクセスしやすくなるような活用方法を検討いただきたい。

もう1点は、生涯学習は、市民の社会力、地域力の醸成にも繋がっていると思う。

働きながら学び続けるということに対して、講座が日中しか開講していない等、いろいろあるので、いろいろなニーズの方がアクセスしやすくなる工夫を是非、お願いしたい。

(委員)

発信方法については長い間課題になっているが、DXの時代になってきているため、その辺りの工夫が必要だという意見だと思う。

(委員)

4.本市における生涯学習施策の課題(1)生涯学習施設利用者の高齢化、固定化について、固定化とは、新しい層が入らないという意味での課題かと思う。

固定されること自体は、ある意味、深い関わりを持つ利用者が増加しているということであり、課題とは言いづらいところもあるのではないか。

また、4.本市における生涯学習施策の課題(4)今後の生涯学習施設の在り方での「生涯学習施設」は、生涯学習センターとコミュニティセンターのみを指していると読み取れるが、その理解で合っているか。

それから、役割を明確化させるための見直しが必要であるという課題に対して、続いている項目がどう関連づいているのか伺いたい。

(事務局)

同じ方が参加していることが課題であると捉えていたが、御意見のとおり、それが良いところでもあるという捉え方もあるので、この表現については、検討させていただきたい。

生涯学習施設のあり方については、見直しが必要であるということだが、今回の方針は、こういう方向性でいくということを決めた上で、生涯学習施設の体制、運営についても繋げていきたいと考えている。

新しくいろいろな生涯学習施設や他の自治体の状況も見た上で、現状のままの体制なのか、更に市が行うべき事業を進めていくのか、いろいろな方向性があると思う。

今回、方針を定めることで、もう一度、生涯学習施設をどう進めていくか、今後のあり方について考える一つの土台にしたいと考えている。

(委員)

コミュニティセンターについて、「(生涯学習関連)」とついているところを読むと、コミュニティセンターの役割の中で、生涯学習に関するところについてという表記なのかなと読み取った。

コミュニティセンターは、講座をする場所というイメージがついていたが、大町コミュニティセンターの場合は、元小学校教員、コミュニティセンター主任、スクールソーシャルワーカー、民生委員、いろいろな地域の主体で約10名のチームを作り、地域の小学校に通う子ども達の中で、特に情緒の部分で課題がある等、何らかの精神的なケアのサポートが必要な子ども達を集めて、伴走的な支援をしている。

このように講座をする場所であるとか、学びの機会の提供という言葉にはなかなか反映されないようなロビーワークのような部分、個別の事業、伴走事業だったり連携事業だったり、いろいろな形での取り組みがある。

生涯学習関連というように個別に明らかにしていくことも大事だが、重なり合う部分、少し境界的な部分、周辺的な部分を、他の課とも協力しながら、どのように実績として「見える化」していくか。

役割の明確化でもそぎ落としていくという視点ではなく、組み合わせて役割を見出していくというのが大事である。

(事務局)

参考にさせていただく。

(委員)

近年連携という言葉がよく使われるが、今はもう連携から実践へと変わっている。

160を超えるいろいろな事業があるが、状況に応じた実践がどうできているかが、今後、本当の意味での評価になってくるのではないか。

(2) その他 高松市読書バリアフリー計画について

高松市読書バリアフリー計画について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

新しい高松市の読書バリアフリー計画という形で、非常に重要な計画だと思う。

(2) その他について委員に意見がないか確認する。

取り組んでいることで、紹介したい内容がないか確認する。

意見等はなかったので、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上